

1 市川小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

◆位置

市川小学校区は市の北西部に位置し、地区の西側は江戸川に面しています。

◆地形・土地利用

地形は、砂州・砂丘と氾濫平野で構成され、比較的平坦な低地となっています。
地区の北側は第一種住居地域等の住宅地になっており、戸建て住宅やマンションが建ち並んでいます。南側にJR総武本線の市川駅があり、駅周辺は商業地域となっています。

◆都市基盤

地区の中央に東西にかけて国道14号、南北にかけて県道283号線（産業道路）が通っています。
また、地区の北側に京成本線が横断しており、市川真間駅や国府台駅があります。地区の中央にはJR総武線が横断しており、市川駅があります。地区内には、JR市川駅行きの京成バスも通っています。

(3) 人口・建物概況

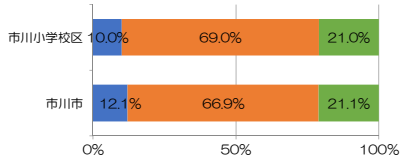
◆人口

年齢別割合

	市川小学校区	市川市	割合※
人口総数	18,426人	487,621人	3.8%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値	12,503人
平均値：39地区の平均値を示しています。	



地区の人口は、全地区の平均人口より多いですが、市全体と比較すると15～64歳の割合がやや高く、若い世代がやや多い地区となっています。

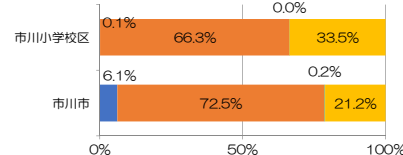
◆建物

構造別割合

	市川小学校区	市川市	割合※
建物総数	3,625 棟	114,958 棟	3.2%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値	2,948棟
平均値：39地区の平均値を示しています。	



地区の建物は、全地区の平均棟数よりやや多いです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合が高いです。また、非木造建物が多い地区となっています。

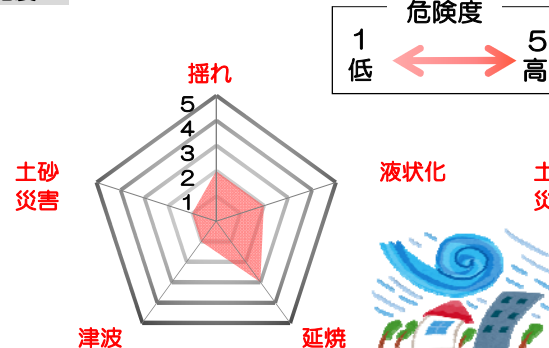
(4) 災害リスク評価

市川市防災カルテ < 市川小学校区 >

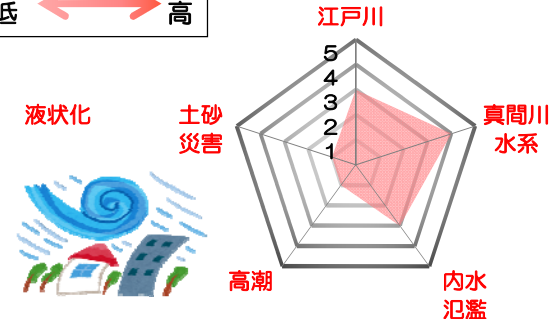
災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。なお、危険性がない場合でも1となります。

◆災害に対する弱み（マイナス面）

地震



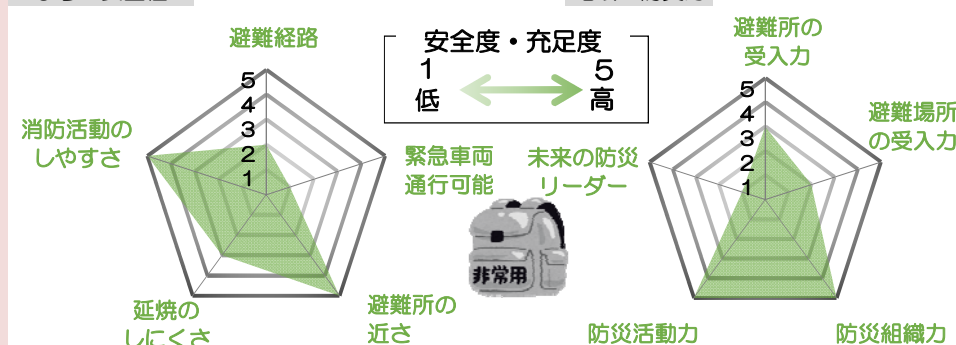
風水害



◆災害に対する強み（プラス面）

まちの安全性

地域の防災力



◆評価

市川小学校区は、地震災害については、最大6弱の揺れが予測され、延焼による危険性が高い傾向にあります。また、風水害については、近くに真間川が流れていることから、真間川の氾濫による浸水の危険性が高い傾向にあります。

一方で、まちの安全性については、避難所の近さや消防活動のしやすさは高い傾向にあるものの、避難経路や緊急車両通行可能は低い傾向にあります。また、地域の防災力については、防災組織力及び防災活動力は高い傾向にあるものの、避難所・避難場所の受入力は低い傾向にあります。

(5) 防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
市川小学校	-		
市川公民館	-		
男女共同参画センター	○		
市川こども館	○		
市川老人いこいの家	○		

◆避難場所

名称
市川小学校
市川公民館
江戸川河川敷緑地

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設（公設）	なし		医療救護所	市川小学校
			関連施設	市川駅前交番
			-	
			-	
			-	

要配慮者利用施設（民設）

16



※要配慮者利用施設は浸水想定区域内に立地する施設を示しています。

(6) 被害想定結果（地震・風水害）

◆地震災害（被害を受ける割合）

	想定項目	市川小学校区	市川市全体
建物被害	全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	1.7%	3.6%
	半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	11.8%	16.0%
	焼失棟数の割合	4.8%	4.6%
	浸水棟数（津波）の割合	0.0%	0.8%
人的被害	死者の割合	0.0%	0.1%
	負傷者の割合	0.4%	0.9%
	避難者の割合	4.7%	7.3%



◆風水害（被害を受ける割合）

	想定項目	市川小学校区	市川市全体
建物被害	浸水棟数（江戸川）の割合	74.1%	52.0%
	浸水棟数（真間川）の割合	16.0%	13.6%
	浸水棟数（内水）の割合	12.7%	20.5%
	浸水棟数（高潮）の割合	0.0%	1.5%



市全体と比較すると、地震災害については、非木造建物が多いこともあり、建物被害はやや少ない傾向となっています。また、人的被害については、死者はほぼ同程度ですが、負傷者及び避難者については、市全体よりやや少なくなっています。

一方、風水害については、江戸川に面していることから、江戸川の氾濫による影響が大きく、市全体と比較して浸水棟数は多くなっています。

(7) 防災上の課題

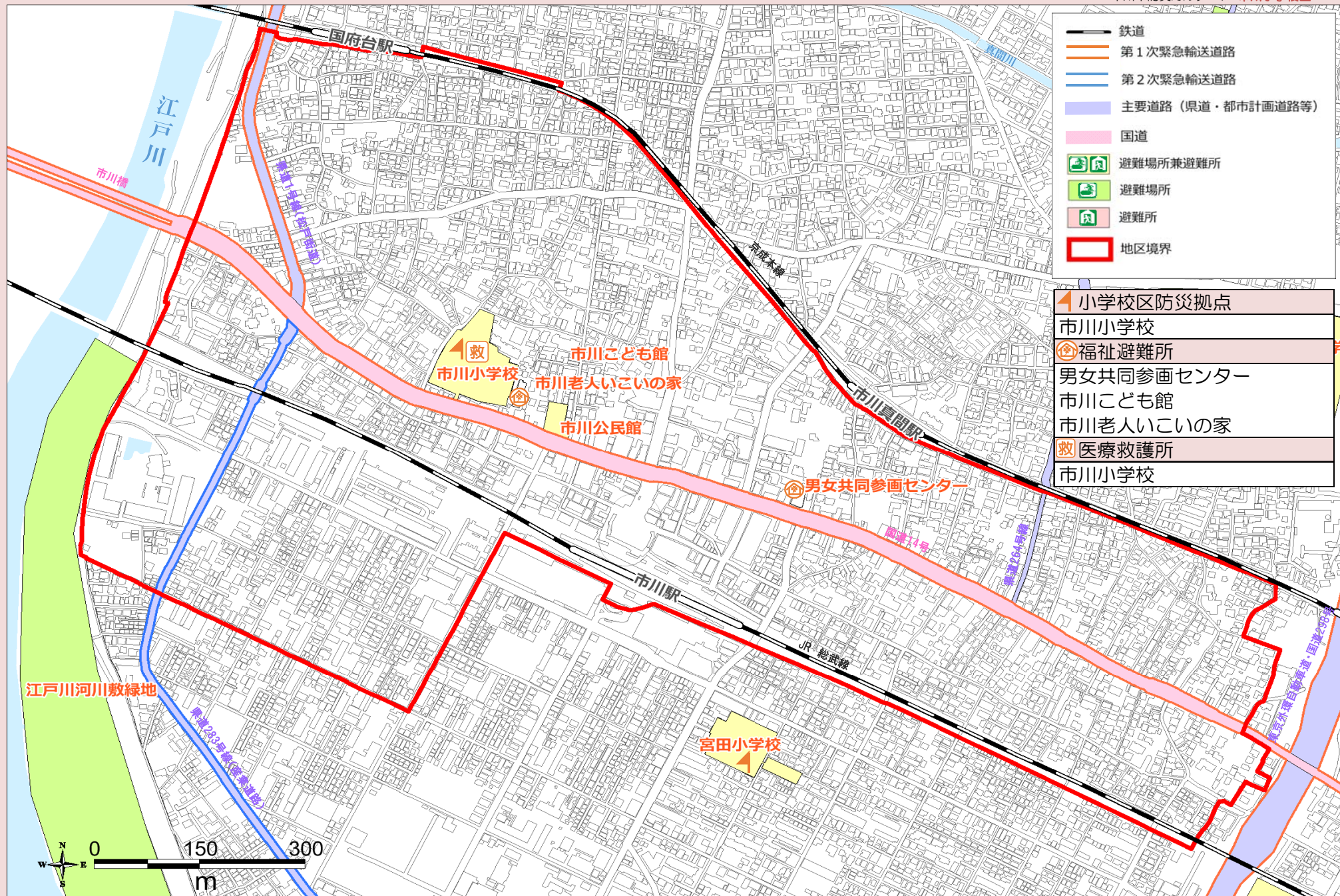
項目	課題
地震	地区全域において、震度6弱の揺れが予測され、液状化や延焼による危険性が高いことから、耐震対策や延焼対策、初期消火対策、ライフライン途絶に備え、家庭での備蓄対策が重要です。
風水害	地区の西側に江戸川が面し、近くに真間川が流れていることから、浸水被害の恐れがあり、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区内には、狭い道路が多いことから、避難ルートの確保が重要です。また、延焼遮断となる空地が少ないことから、初期消火の対策が重要です。
地域の防災力	地区には、避難所及び避難場所の充足度が低いことから、災害発生時は避難所及び避難場所が混雑する可能性があり、あらかじめ近隣の避難施設を確認しておくことが重要です。

(8) 防災対策の方向性

項目	取組の方向性
地域の取組	地区内には、狭い道路が多く、避難ルートの確保が大切であることから、市の助成制度である「危険コンクリートブロック塀等除却」や「生垣助成」の助成を利用したブロック塀等の倒壊による災害防止と、日頃から安全なルートを確認しておくことが効果的です。 また、災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、高い防災組織力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、市の助成制度である「耐震改修助成制度」を利用した耐震改修工事による自宅の耐震化対策や、「あんしん住宅助成」を利用した感震ブレーカーの設置、家庭内での水や食糧の備蓄をするなど、自宅（家庭）の防災性を向上させることが効果的です。 一方、風水害に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置、土のうステーション等を利用した土のうの設置による浸水対策や、円滑に避難できるよう市からの情報収集方法や、浸水想定区域外での避難場所等をあらかじめ洪水ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。 避難経路の確保ができない可能性が考えられることから、まちあるき等を通して避難経路についてあらかじめ決めておくことが必要です。

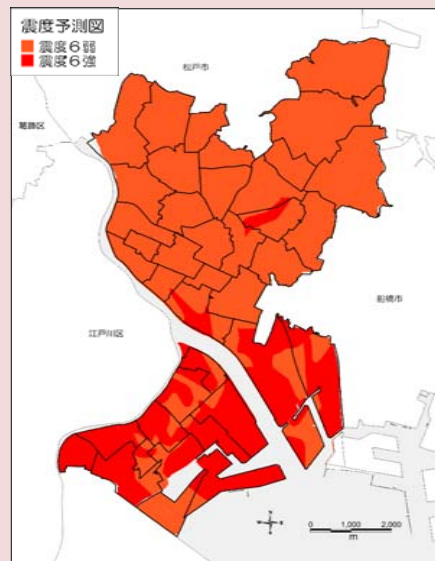
(9) 防災マップ

市川市防災カルテ < 市川小学校区 >



(10) 基礎資料

①市全域の震度分布図



本カルテには、東京湾北部を震源域とする地震が発生した場合の結果です。
震度分布図を見ると、市の北部は震度6弱、南部は震度6強と予測されています。

想定地震	東京湾北部地震
マグニチュード	7.3 (震源深さ：20km程度)

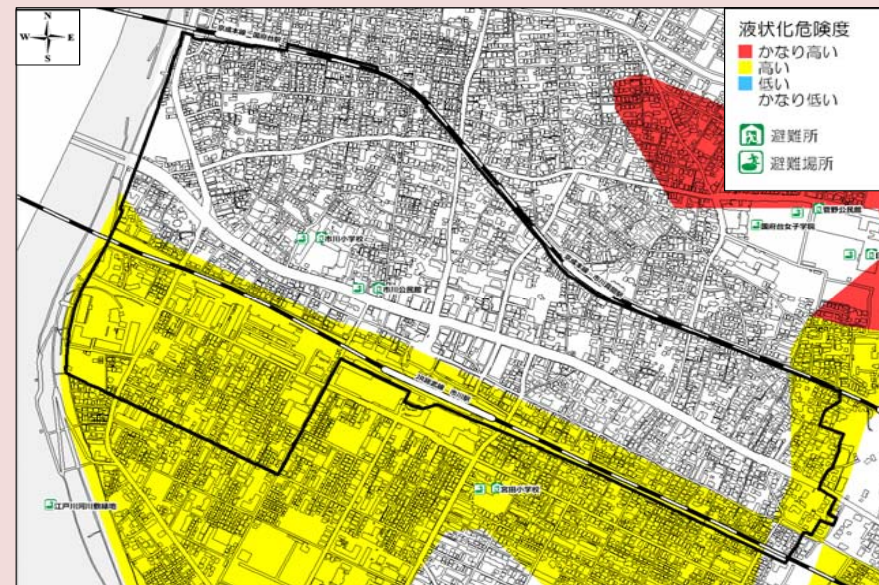


※本結果は市川市地震被害想定結果（平成24年度）に基づいています。

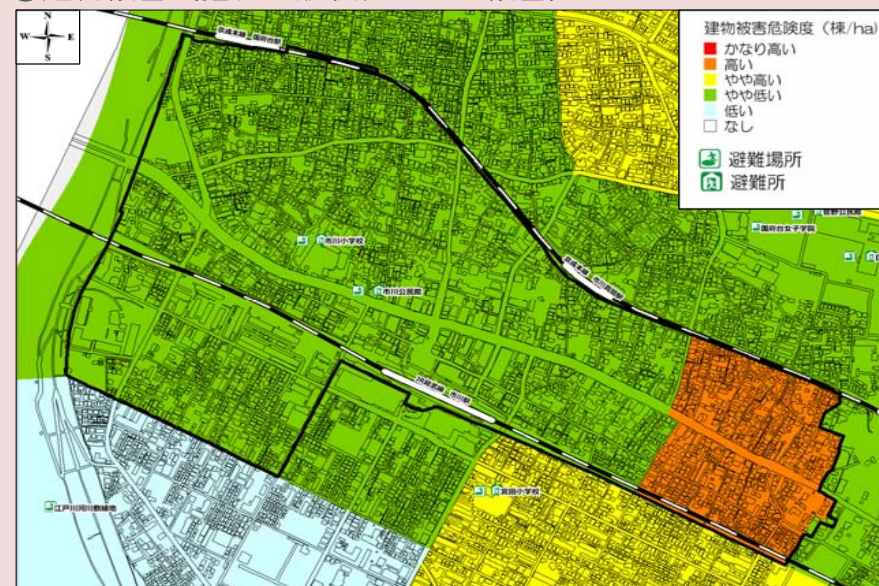
②震度分布図



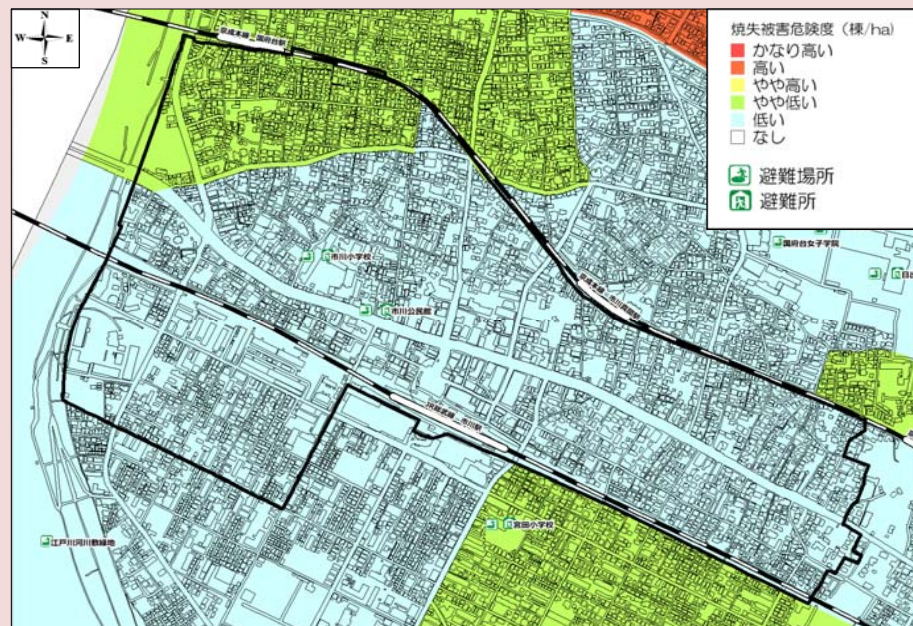
③液状化危険度



④建物被害（揺れ・液状化による被害）



⑤建物被害（延焼による被害）



⑦浸水想定概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。
災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ近隣の避難所及び避難場所について確認しましょう。
また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

水の深さ

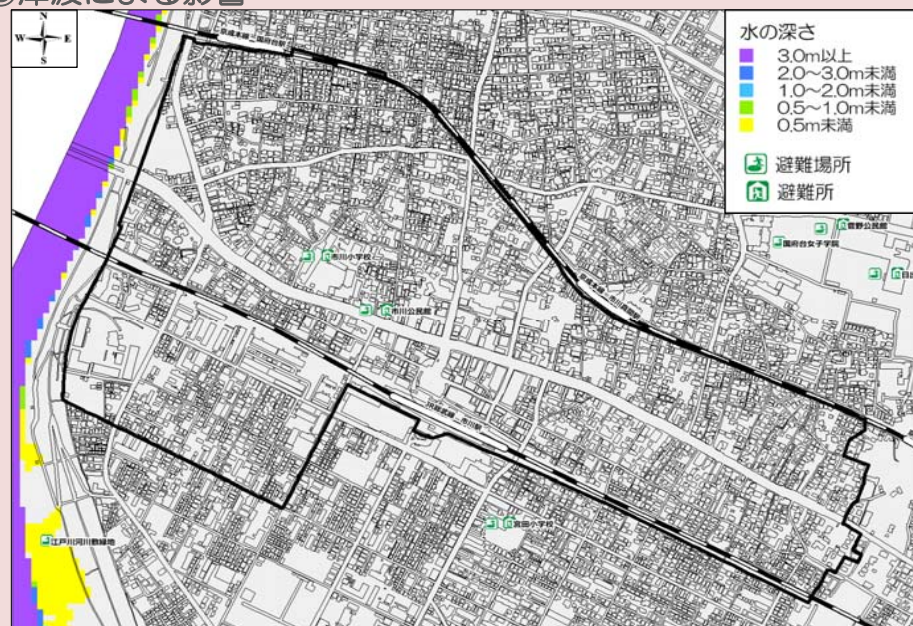
- 水の深さが3.0m以上
- 水の深さが2.0～3.0m未満
- 水の深さが1.0～2.0m未満
- 水の深さが0.5～1.0m未満
- 水の深さが0.5m未満

浸水の目安



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

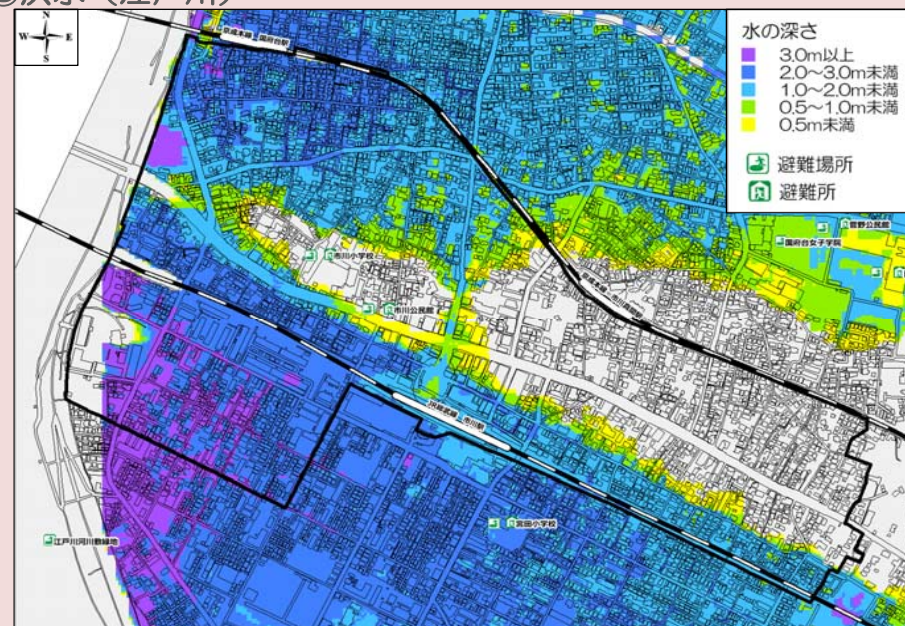
⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

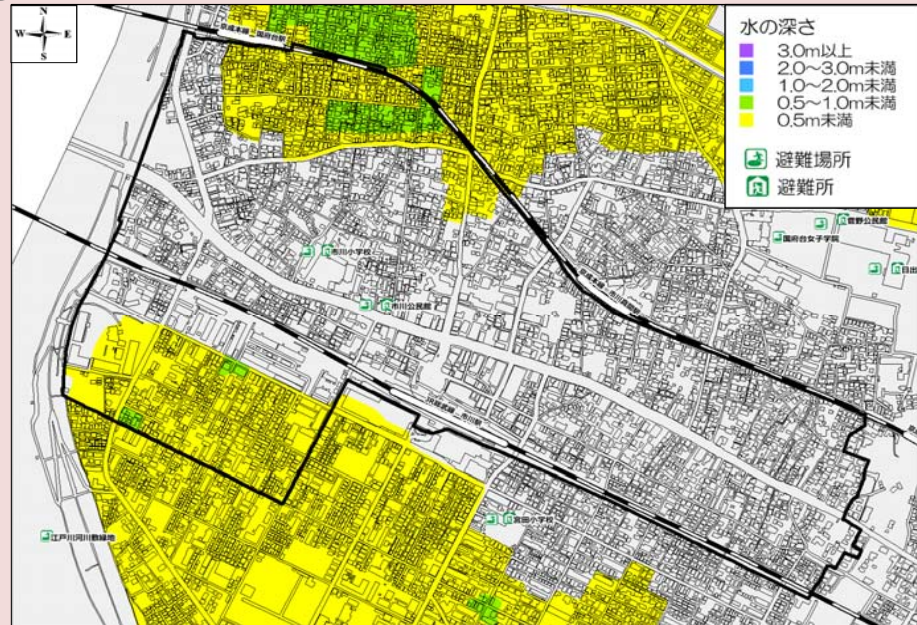
平成24年4月：千葉県

⑧洪水（江戸川）



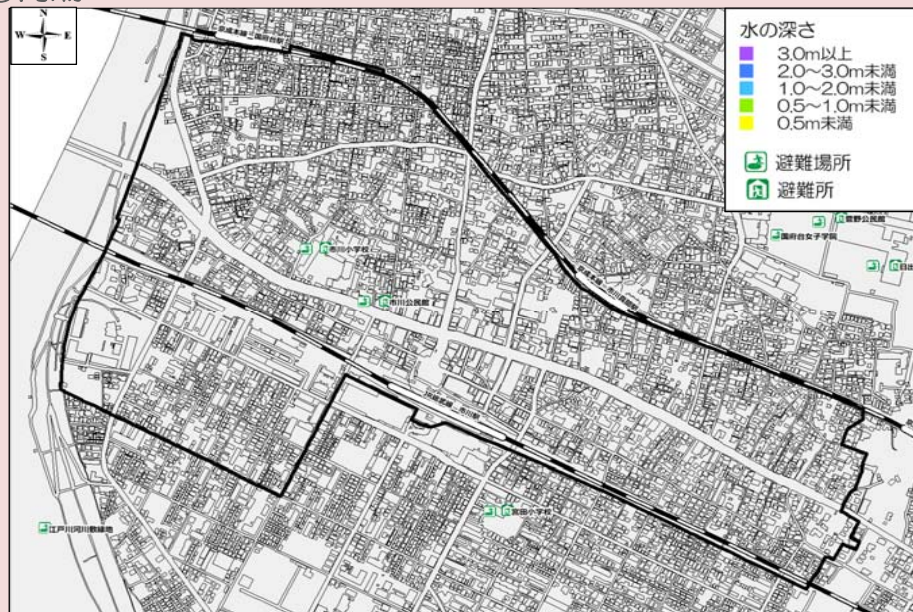
平成29年7月：国土交通省

⑨真間川水系・内水氾濫



平成18年3月：千葉県、市川市

⑩高潮



平成21年4月：国土交通省

◆メモ

